

西浦地区 かわら版 第1号

西浦地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

西浦地区のまちづくりと公共施設の将来について考えています。

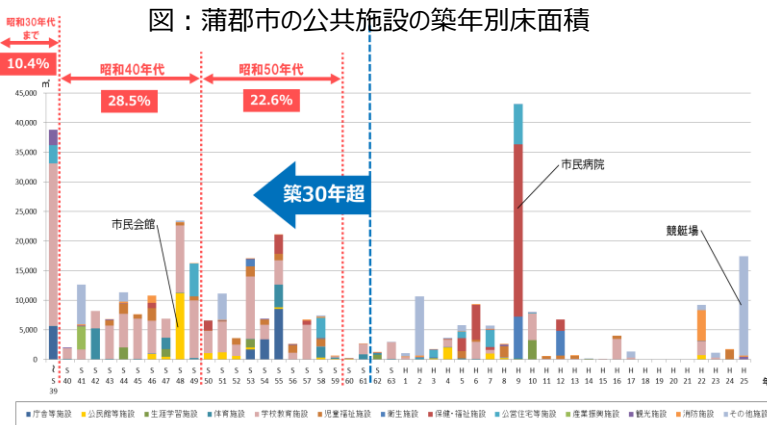
蒲郡市では、今年度、西浦地区及び塩津地区にて、各地区にある公共施設（小学校・中学校・公民館・保育園・児童館）の将来について、地区の住民の皆様と協働で考えていく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催いたします。こちらの「かわら版」では、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地区にお住まいの皆様のご意見を募集します。

蒲郡市の現状と課題

① 公共施設の老朽化

蒲郡市の公共施設の築年別整備面積を見ると、全体の65%がすでに建築後30年以上経過しています。

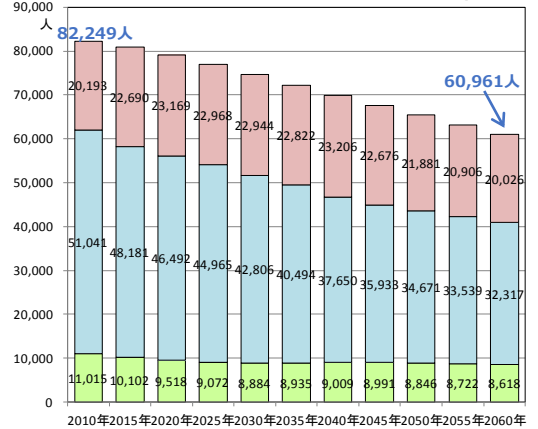
これらの築30年を超える建物は今後、安全性や機能性を確保するために大規模修繕や建替えが必要となり、多くのコストが必要となることが想定されます。



② 人口減少と少子高齢化

蒲郡市の人口は、43年後の平成72年（2060年）には、現在から2万人以上減少し、約61,000人（市目標値）になると推計されています。少子高齢化も進むことから、公共施設の維持更新にかけられる費用が減少することが見込まれます。

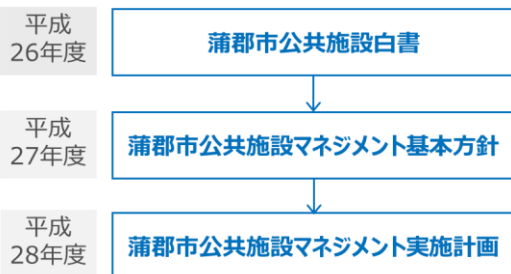
図：蒲郡市人口推計（市目標値）



蒲郡市におけるこれまでの取り組み

公共施設マネジメントとは、市などが所管する公共施設を自治体経営の視点から、総合的、統括的に管理・運営・活用する仕組みです。

市では、平成26年度に「蒲郡市公共施設白書」を作成し、公共施設の現状と課題を認識しました。その後、アンケートや市民会議などを通じ、市民の皆様のご意見を反映させながら、公共施設マネジメントの原則を示す「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」、公共施設の整備を進めていくための方策を示す「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」を策定しました。



■ 蒲郡市公共施設マネジメント基本方針

適正化 効率化 魅力 安全性 実行力

この5項目を公共施設マネジメントの取り組みを進めていく上での原則として示しました。

■ 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

目標、施設用途別の方向性、実行体制などを示し、公共施設マネジメントの取り組みを具体化させました。

計画期間、マネジメント目標については、以下のとおりです。

◆ 計画期間：30年間(平成29年度から平成58年度)

◆ マネジメント目標：

- ① 建物更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
- ② 保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523億円の維持更新費を縮減する。

地区個別計画の策定

小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を中学校区ごとに策定していきます。

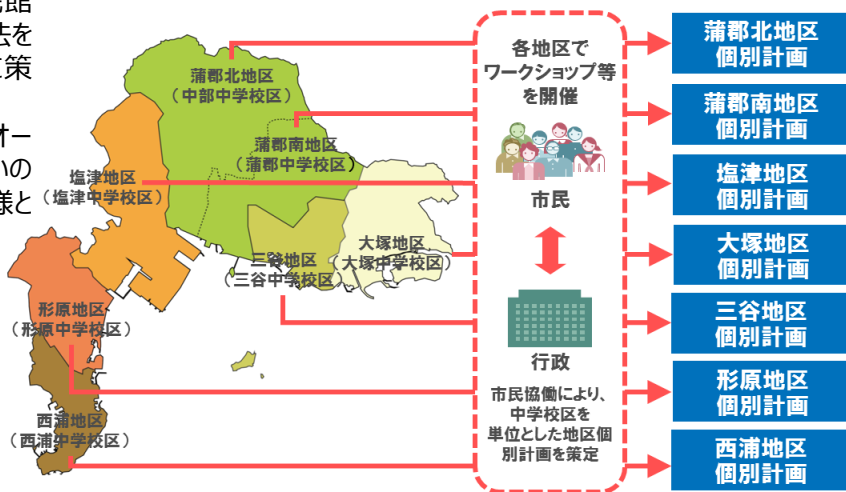
ワークショップ・かわら版での意見募集、オープンハウス等の実施により地区にお住まいの皆様のお考え・アイデアを取り入れ、皆様と協働での策定を進めます。

【用語解説】

ワークショップ：意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめていく検討方法です。

かわら版：本紙のことです。ワークショップでの検討内容をお知らせするとともに広くご意見募集をします。

オープンハウス：住民の皆様が集まる施設などで行うパネル展示型説明会です。ここでもご意見をお聴きします。



ワークショップの位置づけ

蒲郡市が「地区個別計画」を策定するにあたり、市と地区の皆様と協働するための重要な機会としてまちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップを実施しています。

このワークショップは、「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。「地区の将来をどのように考えるか」「なぜそう考えるのか」といった地区の皆様に関心に着目していきます。

市は、皆様のご意見を反映させた西浦地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

住民の皆様のご意見

- ・ワークショップ
- ・かわら版
- ・オープンハウス

地区個別計画

- ・施設・機能の配置
- ・活用方法
- ・再編スケジュール

ワークショップの流れ

9月9日

第1回

進め方の確認

地区利用型施設の現状と今後について懸念されること

10月7日

第2回

地区の課題の抽出

地区の課題を解決していくためのアイデア

12月17日

第3回

施設再配置プランを比較するための評価項目の検討

施設再配置プランの検討

第4回

施設再配置プランの比較

第5回

絞り込み

市が「地区個別計画」を策定

西浦地区 第1回ワークショップを開催しました

9月9日（土）西浦小学校にて、「西浦地区 第1回まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しました。西浦地区の各地域にお住まいの25名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

今回のワークショップでは、まず、これから実施されるワークショップに関することと、これまでの蒲郡市の公共施設マネジメントの取組みや課題について事務局から説明がありました。その後、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、西浦地区の公共施設の現状と今後についての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップでのご意見

公共施設マネジメントにおける考え方

■ 基本的な考え方

- 将来的に人口が減少することは以前からわかっていたのだから、今から公共施設の対策をするというのは遅いくらいだと思う。
- 今後の人口減少はあくまで推計なのだから、地区の人口を増やすための取り組みがもっと必要ではないか。住宅の開発や供給、移住者に対する税金の免除など、特に若者世帯を増やすための施策を積極的に行ってほしい。
- 施設を単に縮小してしまうと利便性や魅力がなくなり、さらに利用者が減少する悪循環が起こることが心配だ。施設を有料化し、維持管理費に充てれば財政負担が軽減されるのではないか。

■ 施設の集約化・複合化

- 実施計画にある様な小学校に学童保育所やデイサービスセンターを複合化する案は、世代間の交流が期待できて良いと思う。
- 全市利用型施設が遠いことで不便を感じている中、地区利用型施設まで形原の方に集約、複合されてしまうとさらにより不便になってしまう。

■ 交通アクセス

- 公共施設の集約や複合化だけでなく、施設までの交通手段の確保についても議論するべきだ。
- 現在の立地のままで規模を縮小して建替える方が、これまでとアクセスが変わらないので利便性を維持できるのではないか。

検討の進め方

■ 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

- 公共施設の再編は地域にとって重要なことなので、ワークショップに参加していない総代、常会長などの地域の核となる人達の意見も聞いてはどうか。
- 将来を担う若い世代や保護者層である現役世代の意見を聞くべきだ。ワークショップに参加してもらったり、その他の手段を使って意見を集めるべきだ。
- オープンハウス（パネル展示型説明会）を活用して多様な世代の意見を聞いてはどうか。人の行き来のある西浦駅や蒲郡駅、待ち時間に見てもらえそうな郵便局やJAや信金、高齢者が集まる場になっている喫茶店など、開催場所にも工夫が必要だ。
- 借地上に公共施設があるとしたら、再編プランを作成してもその通りにいかない可能性がある。計画を検討する際には、地主との関係性や意向の把握も重要ではないか。

■ ワークショップの進め方

- 地区の住民にとって重要な課題なので、このようなワークショップを開催していることを、かわら版やオープンハウス（パネル展示型説明会）などを通じて広く地区の住民に知ってもらいたい。
- ワークショップメンバーになったものの、高齢でケガをしたために参加できそうにない人がいるので若い人に交代できると良い。
- 防災の観点から検討するための資料が提供されていないので示してほしい。
- 学校の空き教室の活用を検討したいので、小、中学校の空き教室の実態がわかるデータがあると良い。

地区のまちづくりの方向性

■ まちづくりの方向性

- 古くからの知り合いが多く互いの顔が見える関係は、ときには窮屈さを感じることもあるが、人と人とのつながりがありコミュニティがしっかりしているということでもあるので、住みやすく子育てしやすい環境だと思う。
- 少子高齢化対策のためにも、子育てしやすい自然環境であることをアピールしたり、現状の子育てしやすい環境をさらに伸ばすことで、若い世代が住みたくなる地域にすることが必要だ。
- 西浦の住民は保守的で仲間意識が強いところがあるので、積極的に他地区と交流して閉鎖的な意識を変えられると良い。
- 少年野球やサッカー等では他地区と交流しているので閉鎖的ではないと思う。
- 海に近い立地を生かして大企業を誘致することなどによって地区内に雇用の場を創出し、若い人が住み続けられるようにしてほしい。
- 西浦半島の東南側のオーシャンビューや龍田浜のウォーターフロント、魚市場、マリンスポーツなどの海の魅力を生かしてPRを行い、リピーターを含めた観光客を増やし地区にお金を落とせる産業おこしができると良い。
- 増加している空き店舗を利用して、まちを活性化させることが何かできないだろうか。

■ 現状の課題と解決策

- 道路が狭く、車のすれ違いが困難、緊急、福祉車両が入れない、子どもや高齢者などの歩行者にとって危険などの問題がある。その不便さが若い世代が定着しない一因になっていると思う。
- 道路の狭さに対して、建築基準法上の最低限の道路空間を空けて家を建てる様に徹底する、ランプ（車の速度を落とさせるためのこぶ）を設ける、通学路では登下校時間は車を通行止めにするなどの策を講じてはどうか。
- 交通の便が悪く、通勤、通学しにくいことが人口減につながっているのではないか。もし将来的に名鉄蒲郡線が廃線になってしまったら、今よりさらに利便性が下がってしまう。
- 蒲郡市の高齢化率は高く、その中でも西浦地区は特に高い。選挙、買い物など市の中心部に出ないといけないことが多いので、車が使えない高齢者にとって公共交通は必要だ。くるりんバスの運行範囲を西浦地区まで広げるなど、公共交通の充実を検討してほしい。
- 津波が心配だが、防災マップがわかりにくく防災情報の提供に課題がある。
- 消火栓や防火水槽の前に路上駐車がされていざという時に使えない。看板やベンキが剥げて存在が目立たなくなっていることに問題があるので、メンテナンスが必要だ。
- 派出所が無くなったが市民パトロールなどで地域の防犯活動が行われている。

西浦地区の公共施設の現状と課題

■ 公共施設全般

- 西浦地区の公共施設は、地区内の一定の場所に集中しているため、住民の公共施設への関心もその周辺の住民に限られてくる。遠い人には公共施設の様子が伝わらない。

- 高齢者が集まって話しができる場所が近所にあると、介護が必要な高齢者と介護している人の双方にとって良いと思う。
- ユトリーナ蒲郡は、公共施設の割に利用料金が高いと感じる。
- 市民病院、図書館などの全市利用型施設が遠い。

■小学校・中学校

- 小学校も中学校も児童、生徒数が少ないため部活動の選択肢が少なく、やりたい競技がないと越境する子どもも出てきている。大勢の中で切磋琢磨する環境も作りにくい。
- 児童、生徒数が少ないことが地域全体で子どもを育てようという雰囲気を生んでいたり、部活内の団結力を強めるという良い面もある。
- 児童、生徒数が少ないのであれば西浦小学校と西浦中学校を複合化したり、小中一貫校にしてはどうか。
- 西浦小学校と西浦中学校を複合化するとしたら、高い場所にある中学校の立地なら津波時の避難所にもなり、防災的に安心だ。一方で、小さい子ども達の通学のことを考えると小学校の立地の方が便が良く、各々に良し悪しがある。
- 生徒数の少なさを考えると、西浦中学校と形原中学校の統合も考えられるのではないか。ただその場合は、橋田などの形原地区から遠い子ども達の通学の利便性確保が課題になる。
- 西浦中学校が形原中学校に統合されると、西浦がますます衰退してしまうのではないかと心配だ。通学も大変になるので望ましくない。
- 西浦中学校に在籍していても形原中学校の野球部に参加ができるなど、部活だけでも統合してはどうか。両方の中学校の生徒が来やすいように、中間にある公園や公民館などで部活動しても良い。
- 中学校は緑が多く、静かで良い環境が保たれている。以前は保護者も関わっていたが、今は先生方だけで維持管理をしているので、今後もその環境を維持していくためには、学校側の負担を大きくしない様に、担い手の問題を解決しなくてはならない。
- 以前は小学校と保育園が一緒にあったが、児童数の増加に伴って保育園が移転した。今は人数が減っているのなら、再度一緒にすれば小学校の空き教室が活用でき、運動会などの行事もにぎやかになるので良いと思う。

- 小中学校の空き教室を活用してはどうか。その場合は、防犯カメラの設置など、セキュリティの課題を解決する必要はあるだろう。
- 体育館だけでなく図工室や調理室なども開放し、様々な活動で地区の住民が学校を活用できると良い。その場合、競技によってはコートが大人と子どもで仕様に違いがあるので配慮が必要だ。
- 放課後の子どもたちの居場所づくりがもっと必要だ。

■保育園

- 西浦保育園が0歳児保育を行っていなかった頃は形原南保育園まで行く人も多かった。求めているサービスを提供している保育園や人気の高い幼稚園には、越境してでも通わせる親が多い様だ。

■児童館

- 小学校と児童館が離れていて不便なので、複合した方が便利だと思う。
- 児童館では未就園児、未就学児も元気よく遊んでおり、子どもに充実した遊び環境を提供する施設は増やしたい。

■公民館

- 公民館には利用率の低い部屋があるが、利用者数は市内で上位である。
- 市の出張所が無くなったが、公民館に代替機能があるので特に不満はない。

その他

- 市民は基本的には地震や津波等に対する防災の意識は持っている。消防団員の立場から言うと、地域に大きな火災や災害が起きると市民の防災意識も高まるものだ。しかし、去年は大きな災害は少なかったように思う。
- 豊川市の人口が増えていることが気になっている。蒲郡市との違いは何か。
- 人口を増やし、同時に治安を維持するために、海上自衛隊の誘致をしてはどうか。
- 地区外の施設だが、市民体育センターの空調は冷房が効かない。なんとかしてほしい。
- 現在のしうら児童館は元は西浦西保育園だった。

ご意見募集

ワークショップに参加される方だけでなく、多くの西浦地区の皆様の意見を「地区個別計画」に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **西浦地区のまちづくりや公共施設について**

皆様のご意見をお待ちしています。



下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当
 〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
 E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp
 TEL 0533-66-1158
 FAX 0533-66-1183

ワークショップ概要

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>

